

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道156号 <small>ぎふひがし</small> 岐阜東バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：岐阜県羽島郡岐南町八剣 至：岐阜県関市山田			延長	13.4 km
事業概要					
一般国道156号は、岐阜市を起点とし関市、郡上市等を経由して富山県高岡市に至る延長約210kmの幹線道路であり、岐阜県内及び東海地方と北陸地方の交流・連携や産業・経済及び観光等を支える路線である。岐阜東バイパスは、このうち岐阜市～関市間における交通渋滞の緩和や交通安全の確保を目的とした延長約13.4kmの道路である。					
S46年度事業化	S49年度都市計画決定 (S55年度、H6年度変更)	S48年度用地着手	S49年度工事着手		
全体事業費	950億円	事業進捗率	47%	供用済延長	6.7 km
計画交通量	40,700 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 2.9	総費用 (残事業/事業全体) 301 / 1395 億円 事業費：255/1349億円 維持管理費：46/46億円	総便益 (残事業/事業全体) 887 / 2720 億円 走行時間短縮便益：832/2563億円 走行経費減少便益：48/141億円 交通事故減少便益：6.7/16億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施					
交通量変動：B/C= 2.5 (交通量-10%) B/C= 3.3 (交通量+10%)					
事業費変動：B/C= 2.7 (事業費+10%) B/C= 3.2 (事業費-10%)					
事業期間変動：B/C= 2.6 (事業期間+20%) B/C= 3.2 (事業期間-20%)					
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保					
・現道の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。					
・岐阜バス岐阜関線、千疋・大平台タウン線、岐阜美濃線、大洞団地線の利便性向上が見込まれる。					
・特急停車駅（岐阜駅）へのアクセス向上が見込まれる。					
②国土・地域ネットワークの構築					
・日常活動圏中心都市間（関市～岐阜市）を最短時間で連絡する。					
③個性ある地域の形成					
・ぎふ清流国体のメイン会場アクセス向上等の支援が見込まれる。					
・世界イベント村ぎふ等の主要観光地へのアクセス向上が見込まれる。					
④安全で安心できるくらしの確保					
・関市から岐阜県総合医療センター（三次医療施設）へのアクセス向上が見込まれる。					
・岩田駅前交差点の安全性向上が見込まれる。					
⑤災害への備え					
・第一次緊急輸送路として位置づけられている。					
⑥地球環境の保全					
・CO2排出量の削減が見込まれる。					
⑦生活環境の改善・保全					
・NO2排出量の削減が見込まれる。					
・SPM排出量が削減が見込まれる。					
関係する地方公共団体等の意見					
岐阜東バイパスは、岐阜市北東部から関市西部にかけての交通渋滞の緩和や、健全な地域開発などの支援を担う道路として期待されており、岐阜市・関市の首長で構成される一般国道156号岐阜東バイパス第3工区整備促進期成同盟会より早期整備の意見（平成22年8月25日）を受けている。					
岐阜県の意見					
対応方針（原案）案のとおり、事業の継続をお願いします。					
なお、事業の実施にあたっては、引き続き本県と十分な調整をしていただくとともに、コスト削減の徹					

